

令和5年度 議会報告会（議員座談会）報告書



《目次》

会場別参加者数および担当議員-----	1
令和5年度議会報告会（議員座談会）について-----	2
地区別懇談内容概要および市所管部一覧-----	3
吉武地区議会報告会（議員座談会）議事録-----	6
吉武地区出席議員の所感-----	18
河東地区議会報告会（議員座談会）議事録-----	21
河東地区出席議員の所感-----	44
大島地区議会報告会（議員座談会）議事録-----	48
大島地区出席議員の所感-----	57

宗像市議会

令和5年度 宗像市議会 議会報告会（議員座談会）

会場別参加者数および担当議員

日時	会場	テーマ	担当議員 (◎班長)	参加者数（人）		
				男	女	合計
11月15日(水) 19:00～	吉武地区 コミュニティ・ センター	子どもの交通安全の確保と高齢者の交通手段の確保について	◎新留久味子 石松 修 石松和敏 安部芳英	11	0	11
		緑風園の今後について	森田卓也 石田和代志			
11月12日(日) 19:00～	河東地区 コミュニティ・ センター	青少年の健全育成について	◎井浦潤也 川内 亮 小林栄二	11	3	14
		まちづくり交付金の見直しについて	笠井香奈枝 岩岡 良 木藤裕司			
11月18日(土) 19:00～	大島地区 コミュニティ・ センター	離島振興について ①漁業の振興,②高齢者の交通手段の確保,③島内の景観の保全,④渡船航路再編,⑤コミセンの移転,⑥観光客の移動手段の確保など	◎北崎正則 吉田 剛 福田昭彦 伊達正信 岡本陽子 上野崇之	8	1	9
合 計				30	4	34



議会報告会の目的について

宗像市議会は、宗像市議会基本条例の理念に基づき、市民の皆さんと議会とのつながりを深め、より一層の信頼関係を築くことを目的に、議会報告会（議員座談会）を開催しています。

◆令和5年度議会報告会（議員報告会）について

令和5年度議会報告会（議員座談会）を吉武地区、河東地区、大島地区の各地区コミュニティ・センターで実施しました。これまで市内12地区のコミュニティ・センターを毎年3地区ずつ巡回して実施してまいりましたが、これで市内全12地区のすべての地区で実施することができました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、この数年は議会報告会（議員座談会）を中止せざるを得ない状況が続いてまいりましたが、今年度は、前回実施の令和元年度以来、実に4年ぶりに実施することができました。

令和元年度の議会報告会（議員座談会）までは、参加する市民の方は3地区のいずれの会場にもお越しいただくことができることとしていましたが、令和5年度の議会報告会（議員座談会）は、実施方法を一部変更し、吉武地区、河東地区、大島地区の地域で活躍されている3地区コミュニティ運営協議会の役員の皆さんとあらかじめ協議して設定したテーマに基づいて意見交換を実施しました。それぞれの地区で意見交換した内容は、各地区懇談内容概要と議事録に記載したとおりです。また、議会報告会（議員座談会）に出席した議員の所感も併せて掲載しています。

議員は、今回の議会報告会での意見交換を通じまして収集した地域の問題点や課題について、それらを解決するため一般質問に取り上げていくなど、各々の議員が個別に対応してまいります。

なお、子どもの安全に関する事項など宗像市議会として緊急に対応する必要があると判断したものにつきましては、議員報告会終了後、直ちに所管部など関係機関に対し、適切に対応してもらえるよう依頼したものがございます。

◆地区別懇談内容概要および市所管部一覧

令和 5 年度議会報告会（議員座談会）を実施した 3 地区それぞれで意見交換したテーマと懇談した内容の概要は次のとおりです。また、それぞれのテーマに基づき意見交換した内容につきましては、市長を通じて市の所管部にも情報共有することとしています。

●吉武地区

①子どもの交通安全の確保と高齢者の交通手段の確保について

テーマ別懇談内容概要	所管部
吉武小近くの横断歩道に信号機設置を要望したが、要件を満たさず設置できなかった。次の段階の措置として既存の道路標示「スピード落とせ」を塗り直して欲しい旨、改善提案書を市に提出した。結果は、路面の状態が良くないので舗装し直すときに一緒に塗り直すと返答があったようだ。通学路の安全確保のためにも早急に行って欲しいが実施時期が不明確。いつになるのかははっきりして欲しい。	都市整備部 教育部 市民協働部
地区住民がボランティアで市道の道路法面の草刈りをしているが、車の交通量も多く危険である。また、斜面での草刈りで高齢化に伴う危険性もある。市の協力が必要。	都市整備部 産業振興部
吉武地区を運行されていた西鉄バス直方線が廃止された。市のコミュニティバスは便数が少なく、待ち時間が長い。本数を増やすなど利用者が使いやすいような改善策を願う。他に交通手段がないのでタクシーチケットの対応をして欲しい。	都市整備部 健康福祉部

②緑風園の今後について

テーマ別懇談内容概要	所管部
閉園中の緑風園の土地、建物が放置されている。まとまった広さで区内の一等地にある貴重な場所なので、コミセンの移転先、高齢者福祉の拠点施設、直販所など賑わいづくりの拠点施設など更地にする選択肢も含めて吉武地区の活性化のために有効活用して欲しい。	健康福祉部

【その他追加で協議したテーマ】

テーマ別懇談内容概要	所管部
広報紙のポスティング移行に伴う令和6年度からの行政事務連絡調整業務委託料の減額について、吉武地区内では世帯数の多い城南ヶ丘自治会は令和6年度予算編成ができない可能性があるなど大きく影響がある。市は何とかして欲しい。	市民協働部

●河東地区

①青少年の健全育成について

テーマ別懇談内容概要	所管部
河東地区の青少年の健全育成については、コミュニティの活動を通じて子ども達は健全に成長できていると思う。教員の働き方改革は、子ども達ファーストで進めていくためにも市のさらなるバックアップが必要。オーガニック給食の導入を。安全な通学路の整備を。ホタルの里公園の木道の改善を。中学校の部活の地域移行の取組で先生の働き方改革へつなげる。コミュニティ事業の子どもの居場所づくり事業の財源が変更され地域としては使いづらくなったので活動しやすいように改善を願う。	教育部 子ども子育て部 都市整備部

②まちづくり交付金の見直しについて

テーマ別懇談内容概要	所管部
<p>まちづくり交付金の見直しが必要ではないか。現状の算定方法では、青少年の健全育成分、健康づくり分などまちづくり交付金の8種類ある各テーマ別に使える金額が分からず交付金の内訳が分かりづらい。コミュニティの各地区、自治会毎の課題も様々なので、もっと細分化した算定ルールに変更を。あわせて、広報紙のポスティング移行に伴う令和6年度からの行政事務連絡調整業務委託料の減額についても、単純に減らすのではなく、高齢者の見守り活動、自主防災などの新たな活動に伴い増額も含めた議論を行って欲しい。</p>	<p>市民協働部</p>

●大島地区

離島振興について(①漁業の振興,②高齢者の交通手段の確保,③島内の景観保全,④渡船航路再編,⑤コミセンの移転,⑥観光客の移動手段の確保等)

テーマ別懇談内容概要	所管部
<p>大島の離島振興策として、聞こえない防災無線の調整と災害時の初期対応のための伝達手段等の環境の整備。子どもへの渡船料の助成。島から高校へ通学できるよう渡船の最終便の時間を遅くして欲しい。渡船の3隻から2隻体制切り替えに伴う予備船の確保などの措置。藻場の再生などによる漁業振興。神湊での島民の駐車場確保。人が集まり利用しやすいコミセンの整備。世界遺産の島にふさわしい景観の確保。</p>	<p>市民協働部 産業振興部 教育部 総務部(危機管理担当)</p>

◆吉武地区議会報告会（議員座談会）議事録

- ◆日時：令和5年11月15日（水）19時～
- ◆会場：吉武地区コミュニティ・センター
- ◆吉武地区出席者（敬称略）：白木雅治（会長）、大和秀三（副会長）、船津重敏（会計）、石橋忠彦（健康福祉部会長）、石松豊幸（事務局長）、三木雅裕（青少年育成部会長）、福原洋二（地域・環境整備部会長）、白木謙二郎（安ノ倉自治会長）、占部秀隆（中ノ尾自治会長）、石松巧（向口自治会長）、河村哲也（城南ヶ丘自治会長）
- ◆議会出席者：新留久味子（班長）、石松修（記録）、石松和敏、安部芳英、森田卓也、石田和代志、神谷建一（オブザーバー）

【新留議員】

コロナで3年間議会報告会はできなかった。久しぶりの報告会。本日は、地域で活躍されている皆さん方と率直な意見交換をしたい。本日のテーマは、事前に協議し、①子どもの交通安全の確保と高齢者の交通手段の確保について、②緑風園の今後についての2点を設定している。限られた時間ではあるが、吉武地区として常日頃感じられていることをお話いただきたい。また、議事録を作成するので、発言時はあらかじめ名前をお願いしたい。事跡に残すための写真撮影を行いたいので支障がある方は申し出ていただきたい。

それでは1点目のテーマ、子どもの交通安全の確保と高齢者の交通手段の確保について補足説明をお願いします。

【会長の白木雅治さん】

吉武小学校近くで交通事故が起こっている。当該箇所に信号機設置の要望を警察に出したが、設置する条件を満たしていないため設置されなかった。当該箇所周辺は、下り坂で車がスピードを出すので危険である。信号は設置できなかつ

たため、市道を管理する市に道路表示「スピードおとせ」が薄くなっているため、その塗り直しの要望を出している。現状は路面が荒れているため、舗装をきれいにし直した後に塗り直すということだったが、それもなされていない。また、八所宮参道の鳥居のある道路が狭い。高齢者や子どもたちも通っている。現在、道路工事中の宗像岡垣線の迂回路としても利用されている道路である。グリーンベルト等が設置されているが、道路が狭い。改善提案しているがなかなか対応されていない。

【事務局長の石松豊幸さん】

信号機設置は、警察に要望したが、設置を断られた。道路標示をお願いしたが、舗装が痛んでいるので、舗装をやり直すときに一緒に引き直すとのことだった。

【石松和敏議員】

緊急性が高いということであれば、維持管理課に相談してみてもどうか。改善提案書は提出しているか。

【健康福祉部会長の石橋さん】

信号は設置費用と距離の関係で出来ないと警察に言われた。市が先に動いてほしい（2年前）。市は最終的に対応していない状態である。

【向口自治会長の石松巧さん】

場所は、日赤看護大から吉武小に通じる左（ブラインド）カーブ。歩道の補修がされていない。道路の法面から草が生えて道路側に2メートル程度はみ出しているところもある。地域のボランティアで道路の法面の草刈りをしているが、車の通行量も多く、業者が対応しないと素人では危険である。地元が管理している用水路もあり、用水路の用地の草刈りを地域として取り組んではいるが、こちらも高齢化など限界がある。

【安部議員】

2つの課題がある。①農事組合での管理に限界がある。②交通事故の危険性がある。改善提案を自治会からあげているが、小学校からあげるのも大事である。校長から通学路改善プログラムをあげているかどうか。

【森田議員】

歩道の状況はどうなっているか。

【地域・環境整備部会長の福原洋二さん】

グリーンベルトが消えかかっているところがある。グリーンベルトを引いたのであれば、その後もちゃんと維持管理をしてほしい。県道なので、県の管轄。通学路で児童生徒も通るので。

【石松和敏議員】

必要であれば改善提案書を再度提出してはどうか。

【副会長の大和秀三さん】

市は、できないならできないとちゃんと返事をして欲しい。担当者が変わってそのままになってしまっている。

【新留議員】

市としてもなんらかの返答が必要であると考えます。

【石松修議員】

不具合については、その他市公式LINEなどであげて対応されているものもある。その結果報告もホームページに掲載されている。

【会長の白木雅治さん】

高齢者の交通手段の確保について、コミュニティバスなど便数が少なく、待ち時間も長い。本数を増やすなどの改善はできないのか。また、他に交通手段がないのでタクシーチケットでの対応が出来ないか。

【新留議員】

西鉄バス直方線が廃止になり、吉武地区はコミュニティバスのみとなった。高齢者の方が免許返納したらとても不便になる。吉武地区でタクシーチケットの署名も行った。

【石松和敏議員】

この課題は、吉武地区に限ったことではなく、他の地区でも問題となっている。南郷地区や城西ヶ丘でも同じ課題がある。日の里地区では路線バスが廃止されたときにオンデマンドバスを導入し、2年間の試験運行を行った。好評ではあるが4,000万円の費用を投入し、それに対する運賃収入は800万円程度である。効率よく運行できておりアプリの登録者数も増え、成功事例として注目されている。タクシーと路線バスの中間的なもので、吉武地区だけで考えると導入は難しいかもしれないが、広い視点で考える必要がある。

【会長の白木雅治さん】

オンデマンドバスは、便利だと聞いているが、地区人口1,800人程度の吉武地区のみでは採算があわないと聞いている。例えば、赤間地区と一緒に運行するなどの策が必要と考える。

【石松和敏議員】

今後、建設産業常任委員会の所管事務調査で市の公共交通について調査する

予定である。西鉄バスやタクシー会社との兼ね合いもあり、民業圧迫の問題も出てくる。行政としては、なかなか対応が難しい。議会議員として対応して市に要望したい。

【会長の白木雅治さん】

私は、来年 80 歳になる。高齢になり免許返納も検討しているが、田舎では車に乗らないと生活していけない現状がある。

【会計の船津重敏さん】

コミュニティバスとふれあいバスの費用はどれくらいかかっているか。

【石松和敏議員】

コミュニティバスとふれあいバスあわせて 7,000 万円から 8,000 万円。デマンドバスを含むと 1 億円以上である。

【会計の船津重敏さん】

便数をもう少し増やしてもらえたら良いのだが。

【石松和敏議員】

コミュニティバスは地元の要望に応じてできると思う。

【健康福祉部会長の石橋忠彦さん】

駅まで行かないのはなぜか。

【石松和敏議員】

西鉄バスとの関係で、路線バスと同じ路線は走らないという縛りがある。コミュニティバスやふれあいバスは遠回りで時間がかかる、地元の方から使い物に

ならないといわれた。

【新留議員】

現在、日赤看護大が終点の路線バスを終点をグローバルアリーナまで延長すると利便性は高くなる。駅まで行ける。郵便局、ショッピングセンター、病院も通る路線を西鉄バスにも要望したが、人材不足で運転手の確保が難しい、シフトの確保も厳しいとのことであった。

【地域・環境整備部会長の福原洋二さん】

新留議員の案はいいと思うが、やめたい事業者にとっては出来ない言い訳ばかりとなる。コミュニティが言ってもなかなか動かないので、地域の気持ちを汲んで議員に動いて欲しい。

【新留議員】

直方線が廃止された後もバスカットされているバス停が残っているので費用もかからず、いいアイデアだと思っている。

【会長の白木雅治さん】

赤字になるのなら、市が補填することも検討してほしい。

【地域・環境整備部会長の福原洋二さん】

声をあげていかないといけない。

【新留議員】

吉武地区には、タクシーチケットの署名に取り組んでいただいた。回覧板により吉武地区内で500筆の署名をいただいた。市全体では4,000筆の署名を集めて市長に提出した。吉武地区ではオンデマンドバスの導入は難しいと思うので、

そういう地区ではタクシーの助成が必要であると考えます。市は検討していると言っている。来年の予算に反映されるかどうかである。

【地域・環境整備部会長の福原洋二さん】

この問題、今日は7人の議員に聞いていただいたので、ぜひ動いていただきたい。

【安部議員】

これまで出された意見をまとめます。まず、子どもの交通安全の確保については、吉武小学校前（カーブ）、八所宮鳥居付近（グリーンベルト）要望をあげているが対応されていない。草刈りが危険で対応が困難である。道路標示が消えかかっている。改善提案書の返答をしてほしい。対応できないにしても結果は報告してほしい。

次に、高齢者の交通手段の確保については、様々な地区で課題となっている。オンデマンドバスが日の里で好評であるが、吉武では難しいか。タクシーチケット導入の検討。コミュニティバスの便数の増加。ルートの見直し（赤間駅に行かない）、西鉄との兼ね合い、西鉄バスの終点日赤をグローバルアリーナまで延伸してほしい。西鉄は運転手の確保が困難。費用の補填など行政として対応できないか。以上です。

【新留議員】

続いて2点目のテーマ、緑風園の今後について説明をお願いします。

【会長の白木雅治さん】

緑風園については、2年前に閉園されたまま、現在に至っている。土地は市の所有、建物は社会福祉法人の所有である。廃止になった理由としては、建物の老朽化による水漏れや水道の漏水があり、修繕するには数千万円が必要であるた

めである。吉武地区内の広大な土地がそのまま放置されている。市長とのまちづくり懇談会でも活用してもらおうよう要望をしており、市としては建物を所有する社会福祉法人の返事を待っている状況とのことである。コロナ禍前には、建物を所有する社会福祉法人の協力を得て、吉武地区コミュニティ運営協議会が緑風園の施設の一部を借りて、映画鑑賞会、カラオケ大会などの高齢者向けの事業を行っていた時期もある。施設の有効活用など吉武地区の活性化のため市として何とかして欲しい。

【新留議員】

緑風園の奥の建物は古いが、手前にあるデイサービスで使っていた新しい建物を利用して吉武地区は高齢者向け事業をしていた。

【石松和敏議員】

デイサービスで活用していた新しい建物部分を吉武地区として利用したいということか。

【会長の白木雅治さん】

それ以外の可能性も含めて、現状は放置されたままで何も動きがない。更地にしてでも活用できないか。

【石松和敏議員】

所有する社会福祉法人は使う予定はないのだろう。市としては何も考えていないのではないか。吉武地区ではどう考えているのか。

【事務局長の石松豊幸さん】

コミセンを移転するのがいいのではないかと考えているが、コミセンも過去にある程度改修してもらった施設を使っているので、そういう面では移転は難し

いとも思っている。ただ、吉武地区の一等地で、広さも場所もいいところなので何かには活用できないかと思う。

【新留議員】

吉武地区として他に案はあるか。

【事務局長の石松豊幸さん】

高齢者福祉の拠点として、賑わいづくりの拠点として活用できないか。

【新留議員】

直販所などで活用するのか。いずれにしても市のビジョンが見えない。

【石松和敏議員】

市有地の活用、市有財産の活用について、検討しないといけないと思う。

【事務局長の石松豊幸さん】

緑風園時代に寄附された土地もあると思う。吉武に残っている貴重な土地である。

【森田議員】

市との協議はいつしたのか。

【事務局長の石松豊幸さん】

令和4年10月のまちづくり懇談会で市と協議した。

【森田議員】

出された意見をまとめます。緑風園の今後については、土地は市、建物は法人

所有である。活用するには水漏れ等の修繕が必要である。吉武地区の一等地にあるまとまった広さの土地なので更地にする可能性も含めて地域としては、ぜひ活用してほしい。コミュニティ・センターの移転先としてもいいと思うが既に改修工事をしているので現実的ではない。福祉や賑わいづくりの拠点として利用できないだろうか。市有地、市有財産の活用というテーマで一般質問、予算委員会等で対応できないか。1年前の市長とのまちづくり懇談会で協議しているが進展はない。以上です。

【新留議員】

今日の感想も含めて他にありませんか。

【事務局長の石松豊幸さん】

その他の項目として提案したい。広報紙のポスティング開始に伴う市からの委託料減額について、市広報紙の配布を自治会の配布から業者のポスティングへ切り替えること自体は賛成であるが、そのことに伴い、市から各自治会への行政事務連絡調整業務委託料が令和6年度から減額されることになっている。吉武地区では、特に世帯数が多い城南ヶ丘自治会では、市からの委託料が減額されることで自治会の令和6年度予算が組めなくなるなどの影響がある。

【城南ヶ丘自治会長の河村哲也さん】

委託料が大きく減らされるので大変である。何とかしてもらえるようお願いしたい。

【新留議員】

市からの委託料減額に伴い、自治会予算の収入が減ることで自治会活動（支出）の見直しが必要かもしれないということである。

【石松和敏議員】

この件は、これまでコミュニティ会長会や事務局長会議で協議してきていると思うが。

【事務局長の石松豊幸さん】

城南ヶ丘は世帯数が多く減額される委託料額が年額約 15 万円と多く、その影響も大きい。吉武地区でも城南ヶ丘以外の自治会では市広報紙を配布する負担が無くなるメリットの方が大きく、世帯数も少なく委託料減額の影響（デメリット）も少ないので減額受入れは可能である。

【新留議員】

その他、議会報告会についての意見要望はありませんか。

【事務局長の石松豊幸さん】

議会報告会という名称だったので、今日は議会の方から報告があるのかと思っていた。今日の内容であれば意見交換会で報告会ではない。名称を変更した方が良いのでは。

【新留議員】

以前は、議会報告会「議員と語ろう」だった。

【石松和敏議員】

過去には議会の内容を報告していた時期もあったが、意見交換をした方がいいという意見があった。

【安部議員】

宗像市議会基本条例では「議会報告会」となっている。

【新留議員】

条例で決まっていますが、サブタイトル等で運用が出来ると思う。

【石松和敏議員】

市民の声を直接聴けるのは貴重な機会だと思う。

【安部議員】

宅地化された農地等での課題。草刈ができない新住民が自分たちですべきことと思っていない。感覚が違っている。今日の議会報告会では一般質問の根拠の声をいただけて良かった。

【新留議員】

改めまして今日はありがとうございました。議員は執行権を持っていないが、市民のみなさんの声を聴いて市政に反映させていくのが私たちの仕事です。一般質問や委員会でもいただいた意見を反映させていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

◆吉武地区出席議員の所感

・各コミュニティ、自治会から提出された改善要望書については、我々議員は制度上直接関わることが出来ないため、慎重な判断が必要であると考えます。ただし、改善要望の対策がなされたのか？また、なされないのであればその理由が提出者に回答としてなされているかについては、今後一般質問などの機会を通じて確認したい。また、危険性のある道路脇の斜面の草刈りについては、別の地区の課題としても認識していた。予定していた一般質問の内容と重なる点もあり、可能な範囲で取り上げたいと考える。

・今回は、地区の要望を聞くということでコミセン役員を中心に行われました。あらかじめテーマを絞っておりコンパクトにまとまっていた。議会報告会で出された課題や意見を議会としてとりまとめ、執行部に提案してもらいたい。

(改善を要望する事項)

意見を聴くということで、双方のやり取り（議論）があまりなかったため、若干物足りなさを感じました。内容により改善提案書でも良いのではと思えるものもある。テーマについて双方議論して理解を深めあえるような、方法も次回以降検討してもらいたい。

・地域からの要望はやはり自治会、コミュニティを通じて市にあげるのが民意であると考えます。地域の意見を集約し改善につなげることが、住民自治の存在意義につながると思う。改善要望書の提出後の取り扱いに関してあいまいなところが見受けられるので、毎年同じ時期に前年度の要望の対応結果を踏まえつつ、単年度で対応出来なかったことは要望を出し続けていく、進捗を確認するなど工夫が必要ではないかと感じた。コミュニティ協働推進課はそういった手続き、システムのサポートなども助言して欲しい。

・子どもの交通安全の確保と高齢者の交通手段の確保については、安全確保のため、工事が早急に出来ないのであれば、子ども達の安全確保のため最低限の対策として、白線だけでも引き直すことは出来ないだろうかと思う。高齢者等の交通弱者に対しての、タクシー利用補助制度については、吉武地域だけでなく、他地域も同じような問題を抱えていると思い、簡単な問題ではないと思う。

緑風園の跡地活用については、建物の改修に多額の費用が掛かるのであれば、解体しか方法はないのかな、と思う。早急に所有者と協議すべきだと思う。

行政事務連絡調整業務委託料については、長年金額が改定されていないと思うので、金額を見直しても良いのではないかと思う。

・吉武地域の特性に沿った要望が多くあがっていた。吉武地域でかなり高齢化が進み、これまで地域で担ってきた市道の脇の草刈などが思うようにできなくなっているとの切実な要望があがっていた。この点では、地域で出来ないことは行政が行うことと、全市的にも吉武地域と同じ状況の地域が他にもあると思う。この対策は、市全体としてどういった方法があるのか、十分検討する必要があると感じた。また要望には「現段階では〇〇の理由で検討中でまだ結論が出ていない」など誠実に回答することが重要ではないか。

緑風園の活用は、長期的な展望も視野に入れて検討する必要があるのではないだろうか。確かにあのままでは「もったいない施設」として朽ちてしまう。市の方針を明確にするべきではないだろうか。

地域公共交通手段については、西鉄バス廃止の影響が大きい。住民が切実に要望しているタクシー券助成制度の検討や日赤看護大前行の西鉄バスをグローバルアリーナまで延長するなどの検討も含め、来年度何らかの形で住民の要望を検討すべきと感じた。

・子どもの交通安全の確保については、吉武小学校近くの道路に「スピード落せ」

等の道路標示を役所をお願いしたが、道路舗装が傷んでいるので一緒にすると
の返事とのこと。道路舗装の改良時期は不明だが、地元として緊急を要すると考
えるのであれば、再度、役所に対して緊急要望して、道路舗装と切り離しての実
施も検討してもらっても良いのではないかと考える。

高齢者の交通手段の確保については、コミュニティバスの運行は、原則、当該
のコミュニティ運営協議会において、運行ルートや時間帯やバス停等は決める
ことができると認識しており、現状に即した改善ができないのかと考える。この
問題は、吉武地区だけの課題ではなく、市内多くの地域でも同様な課題等につい
て聞いている。議会として「公共交通の利便性向上」については、協議をする場
を設けることが必要と考えている。

緑風園の今後については、先ず緑風園開所以降、長年、地元・吉武地区の何ら
かの支援もあったと考えており感謝申し上げる。土地は宗像市の所有だが、建物
は社会福祉法人の所有と複雑な状況であり、基本的に何かを提案するには建物の
解体費用（数千万円？）は提案者持ちとの協定書になっているようだ。そうで
あれば、宗像市からは相当の強い公益的な目的がない限り社会福祉法人に対し
ては提案しないのではないかと推測する。例えば、地元の同意が一番大事だが、
地産地消を売りにしている「かのこの里」や「ほたるの里」など農業に特化した
直販所の設置など考えても良いのではないか。その時には必ず地元議員を立て
て一緒に行動を起こすことが重要になると考える。

今回の議会報告会はコロナの関係で約4年ぶりの開催であったが、直接、当該
の地元役員から課題や意見等をいただき、大変に有益な報告会（意見交換会）に
なったと考えており、今後とも形態は変わっても毎年実施することを望む。

◆河東地区議会報告会（議員座談会）議事録

- ◆日時：令和5年11月12日（日）19時～
- ◆会場：河東地区コミュニティ・センター 大会議室
- ◆河東地区出席者（敬称略）：花田鷹人（会長）、大江正徳（副会長）、西田光生（副会長）、花田和美（会計）、安部常美（区長会代表）、光尾三郎（区長会代表）、吉村照久（公民館活動部会長）、丸山美和子（健康福祉部会長）、花田博幸（まちづくり部会長）、石田重俊（広報委員長）、日南利幸（事務局長）、石田龍平（河東中PTA会長）、吉村あや子（主任児童委員）、池上政子（主任児童委員）
- ◆議会出席者：井浦潤也（班長）、川内亮、小林栄二（記録）、笠井香奈枝、岩岡良、木藤裕司、神谷建一（オブザーバー）

【井浦議員】

みなさんこんばんは、議会報告会に参加ありがとうございます。コロナで3年間議会報告会はできなかった。久しぶりの報告会。みなさんの率直な意見を聴かせていただきたい。

議会報告会の目的と進め方の説明をします。

議会報告会は、市政全般につきまして市民の皆さんと自由に活発な意見をするためのものです。本日の意見交換のテーマは、あらかじめ河東地区のみなさんとの事前協議で決定したものです。1点目は青少年の健全育成について、2点目はまちづくり交付金の見直しについて。まず、1点目のテーマについて常日頃困っている問題点や課題を教えてくださいと思います。その後、市議会議員と本日出席していただいている河東地区のみなさんで率直に意見を交わしながらその問題点や課題について河東地区の方々がどれほど困っておられるのかなどについてその思いを相互に理解したいと思っております。

また、意見交換会を通じまして問題点や課題を解決できるようにお互いに前

向きのアイデアを出し合い、市議会で我々議員が行います一般質問でその困りごとを取り上げ出てくることも想定しながら意見交換会を行っていきたいと思います。双方の意見が出尽くしたところで、1点目のテーマについてどのような意見が出されたかを改めて振り返りをいたします。

2点目のテーマまちづくり交付金の見直しについての意見交換に移ります。以降1点目と同様に意見交換を行いまして、そのご意見が出尽くしたところで2点目のテーマの振り返りを行います。意見交換を終了し、最後に本日の会議に参加した感想をお互いに発表したところで会を終了します。

1点目のテーマ、青少年の健全育成について河東地区からの補足説明をお願いします。

【区長会代表の安部さん】

私を感じている河東地区の青少年育成について説明します。河東地区では、6月の上旬には河東小学校の6年生と中学1年生がクリーン作戦をやりながら互いに自分たちの住んでいる地域を綺麗に行っていく事業を進めています。あとは、各担当の方からお願いしたいと思いますが、私自身が河東地区の子ども達について考えている、思っているのは、中学生の自転車の通学が非常に良いということ。また、昨日開催されたむなかた子ども大学では、河東西小学校、河東小学校の子どもたちの活動、それからいろんな方のゲストティーチャーがおられ、子ども達の成長を感じられた素晴らしい1日でした。多種多様な職種の方が参加され、子ども達にいろんな自分の体験談を説明されておられましたし、生徒の方もきちんと聞いており、素晴らしい時間になりました。中学生、小学生の登校態度は素晴らしいと感じております。私からは以上です。

【河東中学校PTA会長 石田さん】

青少年の健全育成ということで、学校の教員はすごく生徒に関わっていると

と思いますが 2023 年度の問題、働き方改革がある中で学校の先生は月に何十時間も残業されていたり、昨日の河東、子ども大学のボランティアで土曜日にも出ているようです、学校教員は土日の休みも少ない中で教頭先生や校長先生は休めない状態です。市と部活動の見直し等も行なっていますが、指導員が少ない状況で進捗状況は良くありません。学校教員のほうも困っておられるみたいので、早急に改善したいと考えている。先生達のメンタルについても最近の若い先生達は気合いと根性でなんとかするぞとは違うと思いますので、そこを見ていただいて、市の方からも教員の働き方に対するバックアップをしていただければ、先生が途中で心の病気でいなくなる事も無くなります。生徒を見る目をかけるのも先生が一番時間が長いと思います。そのような場面をサポートしていただけたらと思っております。

それから、個人的な所で給食にもオーガニックなどを、是非取り入れて頂きたいなと思います。日本は食品添加物の基準は非常に緩い状況、少子高齢化の中で子どもは国の宝、人口が減っていく一方ですので、子ども達の健康を考える意味で韓国などはオーガニックの給食などが進んでいますので検討していただけると非常にありがたいと思っております。私からは以上です。

【区長会代表（副会長）の光尾さん】

安部会長からのお話につけ加えますと、河東地区においては月 1 回区長会の会議を行なっております。区長会は全体的に高齢者から子どもまで幅広く目を向けている、その中で出た意見をお話します。学生の通学路で道路に面する道でガードレールがまだ入っていないところがございます。子どもが少ない地域にガードレールが入っていない、何か理由があるとは思いますがそういったところをぜひ改善して欲しいです。余談ですが、電柱やバス停などが大きな事故につながる可能性を緩和するのではないかと考えています。自転車道で草木を伐採する、そういった環境を作っていただけたら良いんじゃないかと思えます。

【まちづくり部会長の花田さん】

私からの意見です。数年前のテレビで放送されていました。バス停で待っていたら車が突っ込んだ事故の件について、バス停に電柱があれば、万が一のときも車が人に直接ぶつからないため、電柱とバス停の位置関係の改善を検討してほしいです。以上です。

【副会長の大江さん】

コミュニティ・スクール、子ども達の育成にあたっては、社会総がかりで子ども達のために考えていかないといけない。日の里地区のコミュニティ・スクールの取り組みは先行しながらかなり定着していると感じて思っています。河東地区の小中一貫教育におきましても今年2年目ということで、2年間で子ども達が地域に目がいくようになったなと非常に実感しています。むなかた子ども大学、中心で行っている中で地域の子どもがたくさん学校に足を運んで、子ども達と一緒に地域と子どもが協働しながら子どもに関わっているなと良さとして感じます。いろいろな課題の中で子どもが育つという環境の中で色々あると思います。河東地区では、ふれあいの森には大自然があり、ホタルの里公園、コミュニティも彼岸花を植えて花いっぱい運動をしていたり、その作業に関わったりするんですが子どももよく遊びにくるなと思っております。ホタルの里公園には木道があり、自然を観察したりできるところがあるが、近年3、4年は入れないようになっており、あまりいい状況でないと思うので改善して欲しい。今後どうなるかを回答が欲しいです。以上です。

【井浦議員】

ここで、これまで出た意見をまとめます。1つ目は教員の働き方改革、2つ目はオーガニック給食、3つ目は通学路の問題、4つ目はホタルの里、の意見が出ました。この中で議員から答えられる意見などあれば、挙手をお願いします。

【木藤議員】

中学校の部活動については、国の方も地域に移行しようという動きです。野球、バスケットを中心に研究がされております。宗像市、福津市では、①令和5年9月から休みが毎月第一土曜日曜日、②令和6年から第一、第三、土曜日曜日、③令和7年から第一、第二、第三土曜日曜日、④令和8年から全ての土日が部活動を学校部活動から切り離されることになっています。

剣道連盟の話で、地域の方で部活動をやっていないといけなくなってきました。剣道で言うなら、剣道人口が減っていつている状況です。色々やり方を考えていかないといけないみたいですが、そのなかで市の方でも考えていかないといけないので後押しをやっていこうと思っております。以上です。

【井浦議員】

アカデミー教室と言うものを9月から月に一度それぞれの部活で分けて開催をしている。そしてこれからは休みが増えるので外部コーチや部活動の指導員と触れ合えるクラブを作って行こうとしている中で宗像市は先行的にはやっていますが、まだまだ保護者のみなさんに知られてないので告知の方もやっていきたいと思っております。

【岩岡議員】

市はこんなことやっているといったレスポンスも一つ重要なことなのですが、それと合わせ、このような意見があると、一旦議会側に持ち帰って話したいので教員の働き方改革について議会の中でも必ず上がってきていてどの議員も関心をもってやっているのだと思います。

その一つの解決策としては学校をつなぐコーディネーターを入れてみたり、先生達の心のケアをしてくれる方を入れてみたりという形で、教科を持つ先生達の負担を減らそうという動きがあるものの、教員のそもそもの数を増やそうという問題が一番なっているということだと思えます。しかし、議会の中で話に

なっているのは教員の数を増やすのは県の権限ですので、市単独でできるのか
と言う議論をされているとこだと思います。市単位で、職員を雇うということは
できないこともないのですが、それについて、市が今後どういうふうにしようか
と議会のほうでずっと話している状況でありますので、これまだまだ引き続き
やっていく状況なのだろうと感じています。

そこで教育とかけまして、僕の方から一つ質問をさせていただきたいとおも
います。先程の教員を増やしていくには予算が当然かかってきますし、またオー
ガニックをするにしても、予算が必要になってきます。先程ご紹介いただきました
コミュニティや自治会などでさまざまな子ども達向けの事業を行ってきた結
果、地域の子も達がいい状況、状態になっていると紹介がありましたが、いず
れにしても子ども達を育てていく上で予算がかかることが前提です。その中で
みなさんの中でもっと教育に予算がかかる一方でそれを地域の方に返してしま
うと地域の中で予算にあった事業をさらに作っていかなくてはいけない問題が
出てくると思う。その点について教育費を増やすということと合わせてみなさ
んが教育費を増やされたことについてみなさんがどれだけかかっていくこと
について率直なご意見をいただければ、一つの参考にしたいと考えます。

【区長会代表（副会長）の光尾さん】

地域の中では子ども達対象の活動をやっているのですが、十分にやっている
地区とやっていない地区との差は確かにあります。個人的に思うのは、全体的に
子ども達が取り組めるような内容など何か均等を持っての予算が現状はなかな
か厳しいとは思いますが、各地区の中での取り組みは子ども会という組織があ
りますから、そういった中での取り組みがメインになってくる、なかなか限界が
ありますので、学校もしくは行政的な取り組みがないと、難しいと思います。以
上です。

【副会長の大江さん】

現在、子どもに関わるボランティアをやっていますが、今までは市の方からコミュニティの方に「子どもの居場所づくり事業」という名目である程度の予算が出ていました。そして、今度はそれが「地域学校協働推進事業」という、国から県を通じて今まで以上の予算がされていますので大変、嬉しく思います。ただし、活動している中で、従来の「子どもの居場所づくり事業」では予算が使えていたものが、「地域学校協働推進事業」に切り替わったら、それは使えないというものが出てきてとても使いづらくなった。予算の使える範囲内で、事業の内容をおさめていこうというのは、あんまりよろしくない。かえって現場の私達を忙しくする形、これをやっていきたいという主体性がないと、子どもも、大人も消極的になりますので、実態に応じた活動という中でももう少し裁量を持たせてくれたら良いのにとおもいます。

【区長会代表の安部さん】

昔遊びの授業に参加しました。先生が一人でやっていました。教職員の働き方改革、それと教職員不足は問題になっている。それで教育委員会から退職した元教職員の方に講師として関わってくれないかと申し入れ等もあります。私達教職員OBも声がかかったときには協力するように伝えてはいますが、なかなか今の教育環境の中で、例えばパソコンなどの機器を使えないなどを理由に躊躇される方も多い。今後、定年年齢が伸びていく、若い働ける方も多い、機械が苦手な人が多くなかなか使える人がいない、私達教職員OBも県の方には、とにかく人員を確保してくれと、教職員採用について大学でも試験を免除するなどの意見が出ていました。そういう面で県も先生方も給与ベースアップがあってやれているのだということを新聞などでもう少しPRしてほしいと話をしています。厳しい中で戦って負けたり勝ったり喜んだり子ども達の成長につながっていく。市の方でも市独自のこうした費用ができればお願いしたいとおもいます。

【井浦議員】

宗像市では中学校部活動の地域移行の取り組みとして、アカデミー教室や地域の受け皿を作るチームを作るという政策を進めている。現在は各中学校におきまして部活動指導員と部活の外部コーチとの2種類の外部の方がいらっしゃいます。外部コーチの方は責任がありませんので例えば他に付き添いの人がいないと大会などにいけない、年間で3万円を外部コーチに支払われている。部活動指導員については顧問に代わって、責任を持つことができますので、元教職員の方でしたり、国からの援助もあり、報酬が払われています。部活動指導員は今宗像で6人います。市としてはそういったところで進めているときいております。地域の格差について満遍なく地域に対する子どもの予算があったとしても一概には全ての地域ができるのは難しいと思います。子どもの居場所づくり活動の予算が、地域協働活動に切り替わったということで、従来予算を使っていたものに使えなくなって使いづらいという意見もありましたので、もっと緩和して地域の方々が使いやすいものになるように、そういったところで今日は持ち帰らせていただきます。

では、通学路の問題、こちらについて何かございませんか。

【川内議員】

通学路の問題で、八街市のトラックの事故後から小学生が多く通っているところなどにガードレールを急いで設置したということがあります。それから河東地区の福崎の道路などみて自転車で通るのに車が危ないなというところがあり、県道なので県には報告していますが、中々進んでいなくて申し訳ないです。通学路の問題や教員を増やすということに関しましては私達も同じ立場で地域の声を行政に届けていきたいと思います。以上です。

【井浦議員】

はい、ありがとうございます。もうこのような意見も全てです。各それぞれの議員も同じ、良い方向でいろんな質問を行ったりさせていただいていることは

ありますので、また、この意見が出たということ、踏まえていきたいと思いません。

【笠井議員】

市の方の支援員さんは40人ぐらい今、市で雇っています。40人ってすごいなとは思いますが、小中学校の数が20校ちょっと考えると、結局1つの学校には1人か2人しかいないことになるので、今、発達障害の子が増えているので、やはり担任の先生だけでは対応できないお子さんに支援員がついています。まだまだ足りないのが現状です。例えば、古賀市ですが、少人数学級で35人学級を実現してやっています。なので、本当にやろうと思えば、自治体の裁量でできてくると思いますので、ただ、35人学級って、少人数学級やりたくても、国の方も打ち出してはいますが現場の教員が足りないの、足りないところではどうしてもそこに踏み込めないことです。生徒数が多い学校では、現在の40人学級で校舎に余裕がないところを35人学級にしてしまうと、さらに教室が足りなくなるので、一概に少人数学級を進めていけないという現状があります。教員数が足りない。小学校と中学校では免許が違う、例えば中学校の免許の方とか、そういった方が臨時免許で教えてらっしゃるのが現状としてあります。臨時の講師としてとかですね。例えば、中学校の技術や家庭科など、専門教科は、先生がいなくて一学期は受けられなくて二学期が受けられたとかいうのもありました。県の採用を待ってこちらも要請はしているとは伺っております。そういうところはやっぱり過去にもあったと伺っております。

【井浦議員】

もう1点、ホテルの里公園の件が先ほど出ましたけど、お分かりになります方はお願いいたします。

【木藤議員】

先日、河東地区コミュニティの清水環境部会長様とお会いし現場を色々拝見しました。今はそのままになっていますが、木道は撤去する方向と聞いています、アサギマダラなど有名な蝶々のお話も聞いていますので、また報告させていただきます。

【井浦議員】

はい、ありがとうございます。終了の時間になりますので、担当の議員から、今出された意見の振り返りをお願いしたいと思います。

【岩岡議員】

振り返りをさせていただきたいと思います。皆様のご意見を伺った後に、改めてまとめますと、2つの方向の視点があるのかなと思いました。1つは、地域としての成長、育成としては、これまでいろんな事業を行ってきたおかげで子ども達が健全に育っているということをやっぱ実感するというお話がメインだったというふうに思います。

それに、そこからさらに事業を拡大していくにあたって、地域の中からこんなことしたら、よりいいよねという声に対しては、予算付けは欲しいけども、一方で強制的に、こんなことやいなさいよという風に言われると、いや、それは違うのではないかというようなところがありますので、実際にどういう事業をすべきなのかっていう核をやっぱりその河東地区全体の中で共有していくことから始める必要があるのではないかというのが意見だったというふうに思います。

もう1点、学校からの視点で、基本的には、その子ども達に対してどのような教育をやっていけるかという前提に、教員の負担、それをサポートする側の予算の問題があるよという話だったと思います。教員の負担に関しては、市議会も含めて、県に対し、要請も含めて、色々動いていますけども、まだまだ

というのが現状ということで。その教員の負担、教員から教育を受ける子ども達に対して、日本の子どもとして国際的には負けないように教職員に対してもオーガニックを導入すべきであるというような、前向きな、要望の声が上がってきたものと考えています。それぞれについて、答えがあったものと思いますけれども、大きくその辺かなと思っていますんで、私の方から以上とさせていただきます。

【井浦議員】

ありがとうございました。

それでは、続きまして、2点目のテーマ、まちづくり交付金の見直しについてに入りたいと思います。このテーマにつきましては、花田会長から説明をお願いしてよろしいでしょうか。

【花田会長】

まちづくり交付金の見直しについては、コミュニティ会長会で問題になりました。まちづくり交付金の1人当たりの額について、人口の多い地区は、1人当たりの交付金額が少ないから増やしてほしいとの意見がありました。見直しをすると、人口の少ない地区については1人当たりの交付金額が減ってきます。人口の少ない地区を減らさないでほしいという意見もあるので、コミュニティ会長会でもいろんな意見があって、困っている状況です。河東地区の中では、まちづくり交付金について、特に私が知っている範囲では、見直してほしいという意見は出てきておりません。1つあるのは、これと関連して、市との行政事務連絡調整業務委託料で、今回、一番大きく問題になったのは、広報紙の配布。自治会が配布することになっていて、1戸当たり1,000円だったのが、自治会が配布せずに業者にポスティングすることになって400円減らされて令和6年度から1戸当たり600円になることですね。去年から広報配布をポスティングに切り替えるということで、令和6年度から委託料が減らされる

ことは、意識していなかったと思います。広報配布の仕事が減るならいいよつてということで河東地区ではシルバーの方にポスティングをお願いすることになりました。

実際に、令和5年度までは委託料額は変わらないのですが、令和6年度から委託料が減るのでね。現実になった時、令和6年度の区長さんには、そのような事情を含めて上手く引き継いでほしいです。私も前、説明できなかったのですが、この前のコミュニティ会長会でも意見を言ったのは、市政を良くして広報配布が減るのであればいいですよ。

今年の施政方針から市長は、広報配布の負担を自治会から減らします。その代わりに地域に、高齢者の見守り、自主防災のことを協働でやりましょうということで、また別の負担が地域にかかっているのです。自主防災とかはいいけども、新たに、自治体に負担を求める部分については考慮してほしいという話は、コミュニティ会長会で私は意見を言いました。それについては意見を言っただけで、9月議会に伊達議員の一般質問がありました。その中で「少し検討します。」という話になっていることは聞いております。

【井浦議員】

はい、ありがとうございます。このまちづくり交付金の見直しについて、ご意見ございましたら、河東地区の皆さんから、まちづくり交付金の見直しについて何かご意見ございますか。

【日南事務局長】

大きく考えると、まずまちづくり交付金について、現状、各地区のまちづくり交付金額は、均等割、人口割、面積割などあるルールの中で算定されているが、実際その中身が、例えば青少年の健全育成の額がいくら、健康づくり分の額がいくらなど、実際の中身がどの部分にどれだけかというのは、よく分からない、自分が分かりづらいつていうのはあります。

大きな集落と小さな集落とでは格差っていうか、そういうものが出てくる、あるかなっていう風に思いますので、実際、まちづくり交付金の内訳は、各年度の最初の説明ではありますが、かなり大雑把な額だという感じがしていますので、もう少し、交付金の中身が少し分かるようになってくれば、コミュニティ会長会なり、事務局長会の中でも、その意見が出てくるかなと感じます。

【区長会代表（副会長）の光尾さん】

須恵区の関係でお話しさせていただきますけど、例えば須恵区で1年間分の予算を組みます。その時に、市からの行政事務連絡調整業委託料、冒頭申しましたような例の助成、これが大きな財源となっているのは事実です。我々も、個人的には、須恵区全体で協議した訳じゃございませんけど、1人当たり1,000円が600円に減額される、6割減じゃなくて4割減も大きいかなという感想を持ちます。例えば、福社会、子ども会の関係団体の予算にもこの行政事務連絡調整業務委託料から区の助成金というものがそれぞれ入ってきています。これは当たり前のような予算になっているものだから、先ほど日南事務局長も言われましたように、なかなかこの交付金という認識がちょっと、無いと言ったら怒られるかもわかりませんがね、実態は。その上で良いかなという感想を持ちます。

【井浦議員】

ありがとうございます。他にこの件に関してご意見はございませんか。では、このまちづくり交付金の件で話が出ています。岩岡議員どうぞ。

【岩岡議員】

先ほど花田会長から話があったように、まちづくり交付金の見直しについて、前回と前々回だったと思います、議会の中で、2人ほど一般質問があった記憶しています。その1つの趣旨として、物価高に伴って、コミュニティへ配

布されるお金が何も基準として変わってないから、連動して変えていくべきなんじゃないかっていうことの議論が1つ。もう1点が、ちょっと非常に大きな話になるのですが、コミュニティというものがそもそもいろんな自治会からの集合体として出ている訳ですよ。一旦コミュニティにお金は割り振って、そこから各自治会に割っていくやり方をしている部分もあるのでしょうけども、地域によってはコミュニティじゃなくて直接自治会に対して交付した方が、効率がいいのではないかという議論も出ていました。で、これについては、まだまだ検討過程だという形なので、何も答えは出ていませんけども、新しいコミュニティの形と自治会の形でどいう負担を割り当てるかということについては、1回見直さなくてはいけない方向にあると思います。その上で、教育のときに聞きました、事業名として、予算を取る時にこれしてくださいよってくるのか、何をすべきなのかっていうことを絞って、それに対する目的にお金を与えていけるシステムにするのかっていうところは、大きな今後の転換点だろうっていうふうに個人的には感じます。一旦、これまで通りやってきたから、このお金でなんとかしてくださいねっていう話を、コミュニティも自治会も続けていくのか、それともコミュニティに与えられた役割、自治会に与えられた役割って何なのかっていうことを一旦絞って、そこからそれに必要な財源を与えていくっていう形にしないといけないと思います。先ほど局長も、部長さんもおっしゃられたように、何のためのお金があって、それが何いくら減ったから、それがどう困っていくのかっていう全体像が、多分市の方にもフィードバックできてこないのだろうと思う。このコロナ禍っていうことを1つのきっかけとして、本当は見直そうとしていただろうと思います。もう1回見直す機会にするべきだろうと思います。私は町内会長をしているのですが、去年まで3年間自治会は何も動いてなかったのです。動いてなくて今年から私が町内会長として動くときに、「夏祭りしましょう」、「いろんな祭りをしましょう」って言って出てくるのですが、この1年で交代している自治会の皆さんの中では、誰にどうお願いしていいかわからないという状況の中で、な

かなか進んでいかないこともあると思うのですよね。難しい。それでも、自治会の事業として、これはやっていこうというふうに決めて進んでいく中で、それをやった後に、これやってよかったというふうに思ったことは、たくさんあったと思いますし、むしろ、でもあの時はしなかったよねっていうことを、次の次年度に僕は多分引き継ぐ立場にあると思うのです。今回は前回、3年前、4年前と同じで、フルスペックではやってないけども、フルスペックでやらなかったことによって、ここはいいことがあったよね、でもこれやらなくていいじゃないの。という仕分けを、その次が繋いでいく役割になっただろうっていうふうに個人的には感じている。それは、コミュニティの中とかでも再確認になっているのかっていうのは、シルバーに委託したことによって予算が減ったことだけじゃなくて、事業全体として、どこまでできるのかっていうところは非常に重要だろうと思う。これまで、局長も前やられていた中で、やっぱりコミュニティ全体の負担が大きいじゃないかっていう話はいろんなところから出てきていて、それについて、例えばその局長会議を減らそう、方向性で事業のカットの方に動いていたはずだと思うんですよ。ただ一方で、今僕は初めて知ったけども、会長からお話があったように、カットした分、別の事業にそれがすり替わったというふうになると、負担軽減の話になったのかという議論をもう1回しないといけない話だと思う。その辺、事業を行っていく、あるいは減らすっていうことについて、それに伴う予算が、正しいのか正しくないのかっていうことについて、今のその使い方も、その感覚を知りたいなと思う。

【花田会長】

まちづくり交付金は、コミュニティの中の話で、自治会とはちょっと違う話になってくる。自治会になると、行政事務連絡調整業務委託料っていうことで、減らされた分の内訳、何がいくらかはわからない。平成17年、コミュニティ運営協議会への一括交付金（まちづくり交付金）ができた時に、まとめて、明細が洗い出されている、20年近くなるのか、新たに増えた項目は追加

されてないです。事業として、減の分だけが減らされ、増えた分に対しての見直しはされてない。行政事務連絡調整業務委託料の中の見直しもして欲しいのが、私の個人的な思いです。それをちょっと理解してなかったから聞かれた時に答えきれなかったんです。聞くと、見直しあったのかなと聞くと、コミュニティからは、それはしていませんっていう話でした。この際に、広報紙配布という大きな分が1番大きいのですね、明細見ると。全般的見直しをしてほしいというのが私の希望です。

【日南事務局長】

各地区コミュニティ運営協議会の地区の特性に応じて、例えば高齢化率の高い地区もあれば、子ども達がまだまだ多い高齢化率の低い地区もある。山間部とか農村部を抱えている地区もあれば都市部しかない地区もある。だから、そういう地区の特性に応じた細かい要素も含めたところで、もう少しまちづくり交付金の中身のあり方を検討してほしい。そのまちづくり交付金を支給する側が、各地区の状況に応じて、子育て施策を最優先にしましょう、あるいは、逆に高齢者福祉施策を優先しましょうっていうところに、（高齢者の分については、高齢化率の高い部分、若干上乘せはあるけれども、）例えば全く子どもさんもないところもある、子ども会もない、子ども達がいらない集落もある。そういったところは、高齢化率が高ければ、もう少し若い人を呼び込んで自治会活動ができるよう、あり方を考えた方がいい。みんな一律にではなく、少し手間はかかるかもしれないけど、細分化したような、お金のあり方を見直し、場合によっては、それでまちづくり交付金の交付額が減るっていう可能性も出てくるのではないかと思う。そうすると、私の今の自分の考えはこうですっていうことについてランキングされ、ランキングをされると、それを抱え、課題を抱えるコミュニティによって違いが出てくるわけです、場合によっては数も減る可能性もあります。また、市政のあり方です。まさに、市が、コミュニティ

っていうものを作って10年経過して、どういう風に進めていこうかというのが、そこに現れてくるじゃない、この中に現れてくるじゃないかと感想。

【井浦議員】

ありがとうございます。まちづくり交付金の中身を、先ほどから出ていますのは、中身しっかり、はっきりしてほしいと、どういう予算付けでこのまちづくり交付金が決まっているのか。その、宗像市の、それぞれ、人口の少ないところ、高齢化率の高いところ、青少年が多いところ、それぞれの地区ごとにも違います。年齢構成も違うと思いますので、市としては、きちっとまちづくり交付金の中に、吟味されたものなのかどうかという疑問もありますし、私たちもそれを、全部、把握できているわけじゃありませんので、その辺りは、しっかり確認をしていきたいと思います。また先ほど行政事務連絡調整業務委託料の話が、自治会に行くお金ですね。これについては、確かですね、1世帯あたり1,100円だったから、100、1,000円で1世帯あたり1,000円のもの、これまでは、広報紙の配布、それから改善提案とか地域の要望を、踏まえるものであったと思います。

広報紙の配布がなくなったことによって、単純に引かれているところで、多分影響を受けるということで、これは先ほど出ましたけど、決算でも、意見が出たり、また議会の一般質問でも、そのあたりを、1,000円の根拠が、変わらず物価が上がっても変わってきていないという意見は、それぞれの議員から出ています。今の段階、コミュニティ協働推進課が、考えてないというのが、ちょっと私たちもわかんないのですが、そういう意見が度々出ていますので、まちづくり交付金の見直しの1つとして、この行政事務連絡調整業務委託料の中身、そのあたりを、しっかり時代に合ったものとして意見が強く出ていますので、私たちもこれをまた追っかけていきたいなっていうのは全員同じような意見が出ておりました。

【川内議員】

計算式はあります。書類は、私にメモをもらいました。そこの業務に行つて、10何本あるから、それに、計算式自体が、少し時代に合っているか、柔軟に見直しをしていきますというような答弁が9月議会の伊達議員の質問で、執行部側がそのように答弁したかなと思っております。まだまだ検討中だと思いますけど。

あとは決算ですね。9月の決算委員会等でも、各議員からこの見直しをということは意見として出ておりますので、本会議の中で、意見を言った上で、決算を通ったっていうのもありますので、今議員が答えたように、みんなで、検討をされていることだと思います。そこは追っかけていきたいなと、それぞれ議員も思っているところであります。

【日南事務局長】

ある意味で、その単価によって削られたわけじゃない、やらないことによつて。そうすると、自治会の仕事ってそもそもなんだったのですかっていうところの議論にすり替わっていきます。要は、今まではそのお金がなんだったかわからなかったけども、それがなくなった結果、足りなくなったからくださいっていうふうになるのか、今までは何だったのって話に戻らないと、いけないんだろうと思う。

そうすると、自治会の方から市へ、こういう事業をするのだから本当にお金がいるよってことを請求し、要求する立場になるシステムの方が正しいのだろうと思う。今、そのお金と福祉会の活動、大きな金額があつて、行事に対する、ものに対するその質と収入の中で、各地区では事業計画の段階では単純な方です。それを見込んで、その流れできている実態です。ですから、それで例えば須恵区でも100万円ぐらいが60万円に、40万円減る。60万円になれば、各事業活動に対する経費削減、皆さんからもらうという方策もあるのでしようけど、一気に解決できない問題になってきますので、事業活動を年々減

らしていこうかなとかいうような方策しか無いかなという状況です。行政事務連絡調整業務委託料を減らす話なら、その減らした分を、他の方に、高齢者生きがい事業、子どもの育成事業とか、単純に減らしてこれだけしかありませんよっていう話じゃなく、それを付け替えるようなことを行政として考えてほしいなっていうのがある。単純に減らすだけではなくて、役に立つように、地域が役に立つような、お金の使い方を考えてほしい。

まちづくり交付金の中でいろんな、市からの一括金、それとか高齢者の生きがい事業ですね。それと道路クリーン活動費とか、分別収集とか、そういうことで補助金額をいただいている、その高齢者が高齢者ということになってきて、ちょっと自分も別の地域でどういう方法で収集の方法を聞いたりするのですけど、環境課の参考にしたりしようと思う。

補助金が出なくなれば、考えないといけない、もっと増やしてもらおうとか、なんかそういう対策もしないといけない。その当番、自治会やめますよっていうような形が大事。

【会計の花田和美さん】

私のところは市からポスティングになって入ってくる、行政事務連絡調整業務委託料の減額は、そんなに影響はない、人口が多いところは大きな影響があります。

私が思うのは、ポスティングするにも、またお金がかかるわけです、各行政区に払うお金を減らさざるを得ないっていうのは私もよくわかります。行政に対して、最後、金を減らすばかりではなくて、今ちょっとこれもいくらか話が出ていましたけども、高齢者が活動、70歳以上の人に1人当たり1,000円という金額はずっと前から同じです。それと河川浄化で作業した時の1人当たりの金額が確か、それは高いから1,500円、そういうところの単価の見直しなんかもやっていただけたらなっとは思いますが。

【井浦議員】

ありがとうございます。高齢者生きがい事業、河川浄化、草刈り等、それぞれ地元で皆さん本当にボランティアしていただいて、単価は、ずっと変わってないってところですが、その辺りも今日、意見としていただければなと思っております。ありがとうございます。

他にこの件に関しまして、お伝えしたいこととかご質問、またご意見があればお聞きしたいと思います。

それでは、ここで2点目のテーマで出されました意見を振り返りたいと思いますので、担当の川内議員、意見の振り返りをお願いいたします。

【川内議員】

この、まちづくり交付金について、直接的に、広報紙の配布から関わってきた問題かと思っております。私は議会も当初、広報紙の配布とポスティング、選べるならいいじゃないかと思っておりました。コミュニティ会長会からも意見が出ておりますように、本当に時代に応じて、高齢化とか過疎化の地域特性に応じて、やっぱり見直していかなければならないと思います。

1つは、はっきり見えにくいというご意見ありました。単価の見直しも、考えてほしいということもありましたので、含めて行政に要望していきたいと思っております。

【井浦議員】

まとめありがとうございました。それでは、最後に、本日のこの議会報告会に参加されました感想を挙手でいただければと思います。発言されていない方もぜひ、感想でもよろしければ、全体を通して感想、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【公民館活動部会長の吉村さん】

私は15年前に宗像市に引っ越してきました。そのときの交通事情というのが非常に閑散としていましたが、今、須賀浦交差点から須恵西交差点の間、1つもないので信号が必要かと思います。第1点目の青少年の健全育成については、議題として、区長の方からお話ありました。ガードレールが必要かと思います。中学生の子がいるものですから、非常に危険もあるからという感覚で、防犯的な感覚でこう話をしました、維持管理の方は、今さっき言いました、やっぱりこう、そしたら下の方をやっぱり逆に、筋を逆にその低くしましょうかとか、お互いいい分がちょっと噛み合わなくて、そしたら、ここ何ヶ月です、要するにそういう業者さんとの見直し時期に来てるみたいです。

【井浦議員】

話をして一般質問で言ったところ解決しましたら、また、ご報告させていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。今日、各議員も、議事録に残しておりますので、今いただいた意見にも対応をできることをしていきたいと思います。他にご意見、感想ありますか。丸山様よかったら、どうぞ、お願いします。

【健康福祉部会長の丸山さん】

皆さんとっても素晴らしい意見に反して、ちょっと情けないですけども、コミセン役員として、不平も不満も楽しさも、日々いっぱい活動させていただいています、皆さんに伝えるような意見は持ち合わせていませんので、聞くだけになってしまいました。でも、とってもいい経験になりました。ありがとうございました。

【主任児童委員の池上さん】

私は、初めて参加させていただいて、今もまだ緊張しているのですが良い経験をさせていただいて、良かったと思っております。議員の方ともお話する

機会もそうそうないですし、顔は知っているけど、こうやって深くお話を聞くこととかもないので、とても今日は楽しく聞けました。青少年のことにに関して、私たちより、皆さんの方がすごいなと思っております。学校とか行かせていただいておりますが、子ども達の様子は、最初出たようにすごく挨拶もよくできますし。地域の方、私たちにもすごく声をかけてくれて、いつもありがとうとか言ってもらったら、子ども達にすごく癒されています。子育てサロンっていうのをしておりますので、割と低学年から就学前の子どもさんとの関わりが多いので、若いお母様方からは、幼稚園、保育園に対する不安が少し増えているとは思いますが、認定こども園を含め、保育園、幼稚園の数だとか、内容だとか働きながらの大変さっていうか、不安とかいうお話は、よく聞くのでそういう情報もお母様方の中で交わされているようなので、私たちの方が、ちょっと勉強させてもらっているなっていうところも多々あります。一応保育になりますけど、保育の先生が少ないっていうことで何歳児が入れないとかっていう声も結構あるので、そこは、学校の先生方と同じで、保育士の不足ですかね。私なんかもう誰か知り合いいないかって言われたりもするのですが、なかなかおすすめる勇気もないしそのところがやっぱり問題だと思います。コロナのあと、去年の出生数が600人それで、その少子化っていうか、コロナの影響もあるのですけれども、赤ちゃんの、盛り返してくるではないかって人の方はおっしゃっていますが、10月、11月の赤ちゃん訪問の実績が0だった。これは希望者のみで、生まれてないというわけではないです。新年中の委員会で話が出たところで、ちょっと心配っていうか、気になるなっていう、保育士問題です。

【河東中PTA会長の石田さん】

中学校からとしての意見はさせていただきましたので、あまり詳しくないですから、予算のこととかわからなくて、ちょっと意見だけ言わせていただきました。ご検討いただけたらなと思います。あと、予算、区の予算のことに関し

ましては、私、絶対ちょっとわからなかったのですが、皆さんの、議論の中でこういう問題があるのだなと思いましたが、皆様の年齢層が、私たちより先輩の方々でした。もう少し自分たち 40 代、50 代の世代が出席してもいいじゃないかと思って、もうちょい若いやつら頑張れよって思ったのが感想です。ありがとうございました。

【花田会長】

今日の議会報告会、意見交換、皆さん本当にありがとうございました。今日はテーマ 2 点だったのですが、この河東地区の個別の問題でしたが、全部河東地区だけの問題ではなくて、市全体の問題であるということ、私たちコミュニティ役員で、議員の皆さんと共有できたと思います。そういう面では、本当に有意義だったと思います。今までは、コミュニティと市との協議って、市長との話で、地域の個別の要望ばかりだったのですね。それが、今日は色々お互い意見交換ができたので良かったなと思っております。これを 2 年に 1 回してほしいと思います。議会報告会を 4 年に 1 回じゃ、時間が、間が空きすぎるなっていうのは、私の率直な感想です。ぜひ、2 年に 1 回にしてほしいと思います。以上です。

【井浦議員】

はい。会長からの強い要望もありました。ありがとうございました。では、改めまして、本日は有意義なご意見、また活発なご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。本日、皆様方からいただきましたご意見を、宗像市議会議員として、私たち議員のこの活動に活かしてまいりたいと思っております。

それでは、これを持ちまして、令和 5 年度議会報告会、閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◆河東地区出席議員の所感

・総論として、良い機会であった。報告会の最後に、コミセン会長から2年に1度の開催に見直してほしい旨の発言があったが、個人的には年に1回ほどは各コミュニティでの開催を行った方が良いのではないかと。通例通り3班に分かれるのであれば、年に4回、四半期ごとの開催となるが、毎議会閉会後に行うことも一案である。

そう考える理由として、参加人数に対して、報告会の時間が短すぎるため、参加者から出される意見に対して、十分に議論し尽くせないように感じたからだ。

開催回数を増やすかわりに、議題を1つに絞ることで、それに対する参加者全員の意見を拾いやすくする一方、その他のテーマについては脱線しないように次の開催としたほうが、しっかりと向き合えると思う。

そうでなければ、今回の報告会でそうであったように、議論を深める目的で話を始めても、その他のテーマに答える時間に縛られる結果、十分に相互理解を得ることなく、中途半端な意見のぶつかり合いのまま、会を終えるようなことが起こり得ると考える。

この点については、議員側と参加者側との相違意見によるものだけでなく、参加者のなかでも例えば部活動の地域移行などについては、若干の方向性の違いもあったように感じたため、市の施策がどのように進んでいるのかという説明とあわせて、そこから懸念される意見も伺ったうえで、ではどのように考えたらよいのかなど、より深い議論ができれば尚良かったと感じる。

各論として一部取り上げると、まちづくり交付金の課題としては良く理解できた。この点は、他の会場で行われた報告会でも同様の意見が出ていることから、市内共通の課題であることも理解され、12月議会の一般質問でも取り上げられた。

また、コミュニティ施策においては、「コミセン役員をはじめとする地域の方に対する負担が大きすぎるのではないかと」という一般的な課題があるため、市が

らの要請に従って(予算組みに従って)各種業務が増えれば増えるほど、負担が大きくなるのではないかと、という質問を行ったが、河東コミセンに関しては、コミセン役員による自発的な行動が、素晴らしい子ども達の育成につながっているなど、大きく実を結んでいるという報告がなされたことから、それが必ずしも負担となっている訳ではないことが理解できた。一方で、使いづらい財源の使途要件などがあることは課題としてあるという発言があったため、今後に活かして行きたいと考える。

また、学校教育における教職員の負担軽減策の強化や、オーガニック給食の導入など、PTA役員だからこそ考えられる提案も伺うことができた。教職員の負担軽減については、市も真正面から向き合っているものの、更なるスピードアップが必要であり、オーガニック給食の導入については、課題はあるものの、市も概ねその趣旨には反対するものではないため、実施可能になる方法などについて勉強していきたい。

最後に、地域の安全安心のための改善要望については、地域改善提案書による要望を第一とする一方、それをもってしても進まない案件(仮にそれが地域の重要課題であっても、市全体のバランスから優先順位が決して高くないもの)だとすると、これらにどのように対応するのかは、今後の大きな課題だと感じる。

・『青少年の健全育成』の題材については、多くの諸課題に対する意見が出された。

「通学路の安全性」の意見では、子どもたちの毎日の生活において重要な課題であると考えられる。箇所によっては用地買収等時間が掛かる案件もあるので、グリーンベルト等での対応できる箇所も見据え、具体的な個所を確認する必要がある。

「教職員の働き方改革」の意見では、教員の業務のスリム化を目的に、学校業務のICT化を更に進める事で、保護者配布用新聞の印刷業務を減らす等の効果もあると考えられるので、追及していきたいと考える。

「部活動改革」の意見では、スポーツ部・文化部の各種目において地域で活躍

している専門性の高い人材を掘り起こし、部活動指導者の組織を形成することで、地域移行に繋がられるのでは考える。

「オーガニック給食の導入」の意見では、子どもたちへの安心・安全な給食の提供に大きな効果があり、早急に進めていくべきだと考えており、今年の6月議会の質問でも取り上げたが、更に追いかけていきたい。

『まちづくり交付金の見直し』の題材については、広報紙の全戸配布が始まったことにより、広報紙配布を含む自治会への助成金「行政事務連絡調整業務委託料」が減ったことで、各自治会活動に制限がかかってしまうという意見や、まちづくり交付金の中身がはっきりしていないとの意見があった。この件に関しては、これまで助成金の単価見直しが無かったため予算が据え置きになっているので、今後単価の見直しの議論に加え交付金の内容を各コミュニティ運営協議会に説明が行き届くよう執行部に伝えていきたいと考える。

・青少年の健全育成について、様々な意見がありましたが、主に通学路の安全性の意見があり、コミュニティ・スクールの導入により子ども達の通学態度が良いという意見があり、子ども大学やコミュニティ・スクールの存在の意義を深く考えました。

まちづくり交付金の見直しについては、交付金の中身をはっきりしてほしいとの意見が多数あり、他地区の方々の意見を聞く必要を感じました。

・部活動改革やまちづくり交付金についてなど、タイムリーなテーマについて地域の役員さんと話し合える機会はとても有り難い。

議会外に対して分かりやすく伝える技術は議員にとって重要であるが、意識して機会をつくる必要がある。今回の議会報告会がその貴重な一つの機会になったことに感謝したい。

どのテーマについても、地域に密着している役員さんならではの問題意識が伝わってきた。たとえば1年に1回は開催するなど、もっと報告会の開催回数

を増やしても良いのではないか。

・私本人としましては、初めてのことで非常に緊張致しました。コミュニティの役員からは地元のことばかりの改善、要望、見直しの発言が多く、色々勉強になりました。早急に対処・対応できること、できないことがあると思いますが、精査して取り組んでいきたいと思います。また逆にその地区の役員が出席され色々な情報が入ってくるので、また機会があれば有意義な会になると思います。

◆大島地区議会報告会（議員座談会）議事録

- ◆日時：令和5年11月18日（土）19時～
- ◆会場：大島地区コミュニティ・センター
- ◆大島地区出席者（敬称略）：佐藤隆数（会長）、河野幸一（副会長、西区長）、宮本俊久（宮崎区長）、田志覚（東区長）、小樋喜登（堂ノ前区長）、大成清明（町区長）、遠藤三保（学び健康福祉部会長）、藤島誠治（島おこし環境部会長）、本田悦子（事務局長）
- ◆議会出席者：北崎正則（班長）、吉田剛、福田昭彦、伊達正信、岡本陽子、上野崇之（記録）、神谷建一（オブザーバー）、新留久味子（傍聴議員）

【北崎議員】

みなさんこんばんは、議会報告会に参加ありがとうございます。コロナで3年間議会報告会はできなかった。久しぶりの報告会。みなさんの率直な意見を聴かせていただきたい。

議会報告会の目的と進め方の説明をします。

議会報告会は、市政全般につままして市民の皆さんと自由に活発な意見をするためのものです。本日の意見交換のテーマは、あらかじめ大島地区のみなさんとの事前協議で決定したものです。本日のテーマは離島振興について（①漁業の振興、②高齢者の交通手段の確保、③島内の景観の保全、④渡船航路再編、⑤コミセンの移動、⑥観光客の移動手段の確保など）。本日のテーマについて常日頃困っている問題点や課題を教えてくださいと思います。その後、市議会議員と本日出席していただいている大島地区のみなさんで率直に意見を交わしながらその問題点や課題について大島地区の方々がどれほど困っておられるのかなどについてその思いを相互に理解したいと思っております。

また、意見交換会を通じまして問題点や課題を解決できるようにお互いに前向きなアイデアを出し合い、市議会では我々議員が行います一般質問でその困り

ごとを取り上げ出てくることも想定しながら意見交換会を行なっていきたいと思います。双方の意見が出尽くしたところで、本日のテーマについてどのような意見が出されたかを改めて振り返りを行い、意見交換を終了します。最後に本日の会議に参加した感想をお互いに発表したところで会を終了します。

本日のテーマ、離島振興について大島地区からの補足説明をお願いします。

【会長の佐藤隆数さん】

急で申し訳ないが、防災無線の件を追加でお願いする。防災行政無線の音声が届かない地域がある。まちづくり懇談会でも工夫を講じてもらうよう要望している。スピーカーの増設や向きの調節などして欲しい。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

中学生くらいまでの子どもがいる家庭は、渡船料の負担が大きい。小児科や耳鼻咽喉科などは島内になく、通院のために渡らなければいけない。子育て支援の観点から支援の検討・要望を。

【事務局長の本田悦子さん】

大島・地島の2つの離島の子どもがいる家庭・子どもたちのために、渡船料の支援として子ども料金が必要。

【東区長の田志覚さん】

合併前までは高校生まで渡船料が半額だったのが、合併後にその制度はなくなった。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

子どもが複数人いる家庭が多く、一回の渡船料だけでも数千円になる場合がある。

【伊達議員・岡本議員】

要望として執行部側に対応を求めていく。国は各種の無償化等を進めていく方針だが、若い世代が恩恵にあずかれない政治になっていることを含めて、離島の特殊事情を踏まえ市の対応を求めていきたい。

【吉田議員】

通院や部活など、目的に応じて支援するのか、子どもであれば安くするのか、その考え方は？

【事務局長の本田悦子さん】

部活動で事前に申請する場合、現在でも減免制度がある。中学校の場合は分からない。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

子どもたちの分は無償化してもよいのでは。子どもたちが残ってくれる、暮らしやすい島にしないと、島の人口は減っていくばかり。

【事務局長の本田悦子さん】

渡船の最終便の時間が遅くなることで、高校生も島から通える可能性が出てくる。保護者の話として、渡船料が減れば食事代に使えるなど、生活の改善になる。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

大島では、15歳になると島を出て高校に進学することになるため、寮のある高校を選ばないといけな。市内に寮のような施設があれば、親子ともに助かるのではないか。

【北崎議員】

水産高校と宗像高校は寮がある。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

それ以外は私立高校になる。

【副会長（西区長）の河野幸一さん】

以前は、宅内装置で防災無線を使っていたが、家庭負担があったため、現在はつけていない家庭も多い。現在の防災無線は聞こえず、危機管理の初期対応ができないという状態をどう考えるか。

【福田議員】

他の地域では防災ラジオ等で被災を防止できた事例がある。費用対効果の検討もあるが、室内と室外の装置で対応する方法は検討することがよいのでは。

【副会長（西区長）の河野幸一さん】

初期の危機管理対応ができないのであれば、予算をつけるべきと考える。

【東区長の田志覚さん】

市から漁業者に対して燃油高騰に対する補助制度や漁港整備の取組があり感謝している。藻場・漁場の造成・改善を、ブルーカーボン等とあわせてしてもらっていることは承知しているが、しっかり取り組んでほしい。ウニによる食害に苦慮しており、筑前海域一帯で駆除に取り組んでいるが、苦慮している状況。

【会長の佐藤隆数さん】

費用対効果とは別の観点から、防災に取り組まないといけないのではないか。

真備町の被災を検証したうえで、行政側では避難誘導・避難行動を行っているが、倉敷市では「緊急告知ラジオ」を配備し、設置料1万円に対し8,000円の補助を各家庭に行った。宗像市の担当課に聞いた際、真備町は地域特性が違うことからできた、大島は山が多いとの説明があったが、宗像市はなぜできないのか。ラジオ設置の補助でなくとも、防災無線の中継基地を設けるなど、島民の生命・安心のために考えてほしい。

【北崎議員】

インターネットを使った「防災ダッシュボード」などが宗像市にはあるが、高齢者は使いにくいなどの状況も。

【事務局長の本田悦子さん】

防災無線は、大島行政センターから直接放送されるため、聞こえやすいが、コミュニティ・センターから広報する場合は、いったん録音されて流れる仕組みで、音が聞こえにくくなる。機能が良くなったらよいのに。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

昔は、電話回線を使う「オフトーク通信」を使っていたが、最近はインターネット回線を使う家庭も増えていて、一斉にアクセスするとパンクしてしまう。市長も光回線の整備を押ししていたが、料金の問題があるようで。

【会長の佐藤隆数さん】

島民の5割は高齢者世帯。若い世代は昼間は漁に出ており、何かあった場合の初期対応を対象者にあつた形で工夫する必要がある。

【事務局長の本田悦子さん】

今日は朝から荒天で渡船が欠航したが、欠航をお知らせする防災無線が聞こ

えなかった。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

中学校の部活などで、その日必ず島外にいないといけないようなときに荒天が見込まれると、ホテルなどに前泊する家庭もある。

【東区長の田志覚さん】

コロナ禍前に住民向けに渡船航路再編の説明会があった際、船を3隻から2隻にしたいとの市側の説明が出たことから、島民側で爆発的に意見が出た。県内には新宮町や北九州市などにも離島航路があり、複数自治体で予備船を持つてはどうかとの市側からの提案もあっている。島民側でもその必要性があると考えている。

【伊達議員】

今度の12月議会一般質問で大島の課題を取り上げていきたい。

【会長の佐藤隆数さん】

議会側にも予備船の話が出ているのであれば、ぜひ執行部を応援してほしい。現状、定期便とは別に年間70～75便の臨時便が出ている。島の生活のボトルネックが渡船であり、しおかぜの問題である。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

神湊に渡った際、島民が使う（第1・第2）駐車場の専用枠指定がない。観光客が多い夏などは駐車場が満車になり、年間契約している人が駐車できない状況があるのというのはいえぬこと。

【北崎議員】

学校の教職員からも駐車場の料金を負担すると通勤手当の額を超過してしまうとの意見もある。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

神湊港の玄海魚市場の跡地を駐車場にできれば便利になるが、国の補助金が入っておりまだ返還が終わっていないので駐車場としては使えないとの情報がある。

【東区長の田志覚さん】

専用駐車場を作ってくれることが一番良い。月極で支払っているのに駐められないのはおかしい。

【宮崎区長の宮本俊久さん】

多い時期には、朝8時の時点で駐車場待ちが生じている。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

夏場は釣り客の利用もあり、キャパオーバーになっている。

【事務局長の本田悦子さん】

大島コミセンはコミュニティ・センター本来の機能を果たせていない。人が来ないコミセンになっている。例えば、医療施設などが入る複合施設になり、人の寄り付きが良い施設になると良い。現状は、コミセンまで送迎をしても健康づくり活動に人が集まらない状況がある。アセットマネジメント計画に示されている令和27年の建て替えだと、(今日の参加者は)みんな生きていない。今建て替えないと。

【島おこし環境部会長の藤島誠治さん】

神湊の波止場の一角（玄海魚市場の所）を大島の漁船が使っているが、状態が悪すぎる（防舷材など）。海に落ちた場合はしごもついているが、実際には登れないような状態である。第3駐車場のところの大島の船をつけられる場所は、神湊側の都合もあり、一時利用しかできない状況。

【東区長の田志覚さん】

大島漁港は県管理の港だが、神湊は市管理で地元負担が割とあることで、二の足を踏んでいる。

【会長の佐藤隆数さん】

オルレコースがあったり、レンタサイクルで島を周遊する人も多いが、落石・落木による事故・けがや、時化や台風一過の後は流木・漂着ごみによる景観悪化があり、世界遺産のある島として胸を張れる状況ではない。

【伊達議員】

大島灯台に行く道など、イノシシ被害や落木もある。

【会長の佐藤隆数さん】

世界遺産のある島の景観を保全するために相応しい、年間を通じた予算設定をしてほしい。

【副会長（西区长）の河野幸一さん】

台風通過後は、釣川の葦が大島にべったり漂着する。

【吉田議員】

今日これまでいただきました意見を振り返ります。子どものいる家庭の渡船料負担をどうにかすることで、子ども・子育ての支援、暮らしやすい・残りたい

と思える島にするべく、行政が支援する。渡船の時間変更により、島から通学できる可能性も出てくる。島民専用の駐車場の場所指定を。神湊市場跡の活用。漁業対策・荷捌き所は整っているが、藻場の再生を進めてほしい。ウニの食害対策も。神湊の波止場・防舷材の改善を。防災無線の設置・向きの調整などで、聞こえるように工夫を。初期対応のために、行政で支援・費用負担を講じてほしい。

【岡本議員】

渡船については、離島間で予備船を保有する提案が出ており、3隻体制を議会でも求めている。2隻体制では何かあった場合の不安が大きい。駐車場の不足については、改めて確認をしていく。島民専用の場所指定がないことで、使えない状況についての確認。神湊魚市場の跡地利用について、土地利用変更の要望が出たことは伝える。コミセン移転について、ターミナル近くに多目的施設として設置することで、人が集まる施設にしてほしい。

【会長の佐藤隆数さん】

こんなにたくさんの議員が大島に来て、意見交換してもらう機会は、私の知る限りで初めて。今後もしよろしくお願ひしたい。

◆大島地区出席議員の所感

・離島の課題を考えると、さまざまな事柄に本土とのハンディがあることを念頭において、考えなくてはならないことを痛感した。

防災行政無線の課題の発言があったが、光回線の利用が30数%しか進んでいない状況であり、改善が必要である。高齢化率が48%を超えている状況では、経費の一部公費負担やスマホ等の操作の支援が必要である。

高校生が島から通える方策も重要である。(海上タクシーの利用時の料金補填)

発言はなかったが、子どもたちのより良い成長には、教育環境が重要であるが、複式学級が進行していくのではないかと危惧する。また、他の学校には見られない、1年生からの「外国語活動」に期待を寄せる。何か一つ誇れるものがあれば、「15の春」を迎えた時、大いなる力となるだろう。

・離島というハンディは、子育て、健康福祉という分野に影響を及ぼし、少子高齢化の影響は人口減少という形で明確に現れていると感じた。元気な島づくり課と子育て、健康福祉に関わる部課との連携がうまくいくことによって、今回議会報告会でコミセン役員の方々が伝えられた島の課題は解決できるのではないかと感じた。

・島特有の課題や不利な面があり、それらを踏まえた対策や対応が必要である。

例) 防災・減災対策や避難計画に関して、島民の高齢化率が高いことから、インターネット利用に慣れない・利用しない層への情報伝達手段として防災無線等の改善の必要性があるが、斜面や山に遮られる地形であるため、音が聞こえにくかったり、仮に聞こえたとしても、高齢者が対応できる避難計画にしたりする必要がある。

例) 医療や部活動のために保護者・親子で渡船を利用する場合の経済的負担が大きい。

行政側の業務縦割りに対し、島民側で必要とする総合的な支援策を講じる必要がある。

例) 離島振興の捉え方として、単に漁業や観光振興の視点だけではなく、島で子育てし、島で暮らし続けられるように、子育て支援や高齢者福祉の視点、地域の環境改善による持続可能性を高める取り組みの視点など、複合的な支援策が求められている。

外部からの「人材とアイデア（広義の関係人口）」も必要とされている。

議会に求められていることとして、まずは「多くの議員が島に来て、話を聞いてほしい」といった思いがあったと感じる。それと同時に、「聞くだけでなく、行政に届ける」ことや「他の地域・自治体との比較や連携（例：予備船の広域的保有など）を通じて、状況を改善してほしい」という思いも感じ取ることができた。

・島で生活している生の声が聞けた。要望が多くなったが、いままで出来てないので要望になるので、課題が多いが、それを市が出来ること、住民が出来ること、を整理してなにかしらの提案も加えて議論ができればいいが、一日でそれをやるのが難しい。

まずは第一歩の現状を聞いて、次のステップに移っていくべきと考える。次のステップに移り解決策を考えるにあたっては、いままでの枠組みのままでは進まないと思うので、新しい技術を利用したり、立ち位置や考え方を変えたり、イノベーションが必要だと思う。難しいことだとは思いますが、じっくり考えていきたい。

・大時化の中、フェリーに乗って大島に渡り議会報告会を行った。離島島民の生活の厳しさを感じた。私が報告会の中で一番印象に残っているのは、災害時の警報である。現在は外部スピーカーで警報を出しているが、これが聞き取りにくい。何を話しているか分からない。万が一の時に役に立たないので何とかしてほしい。

いというものであった。確かに外部スピーカーは遠くまで届くようにすれば指向性のスピーカーを使わないといけませんが、それでは狭い範囲にしか届かない。広範囲で聞こえるように無指向性スピーカーにすると今度は遠くまで届かない。そこで、スピーカーだけでなく合わせて防災ラジオを各家庭に置くことを提案したい。5年ほど前に熊本県天草市に防災の視察に行つて学んだことであるが、かつてこの地方に津波が来た時にこの防災ラジオのお陰で全員無事に避難できたそうである。この視察で防災ラジオの利点をたくさん学んだ。今後、大島にもこの防災ラジオの導入を検討するよう執行部に要請していきたい。

・報告会当日は大時化のため、午後1時まで運航が中止になり、ギリギリまで開催自体が心配されましたが、午後3時の便から運航が再開され、荒波にもまねながらも予定どおりに開催することができました。但し、船酔いする方もおられ、改めて島での暮らしの厳しさも感じることも出来ました。

今回の議会報告会の大テーマ「離島振興について」話し合いの中で出てきた主な内容をテーマごとにまとめると。以下のとおりです。

1、安全・安心な島づくり

①防災行政無線が届かない地域がある。→(要望)スピーカーの増設、向きの調整。

②集中豪雨にあった岡山県倉敷市では「緊急告知ラジオ」などの設置料補助を行っている。→(要望)島民へも補助金を

2、子ども、子育て支援「暮らしやすい、残りたいと思える島へ」

①子どもがいる家庭への渡船料金の支援を→(要望)合併前、高校生まで半額。

②島民の通学、通勤を加味して渡船の運航時間の見直しをしてほしい。→(要望)具体的には、最終便の延長を。

(神湊発 19時から大島へ、神湊発 18時20分から地島、更に遅らせることができれば、高校への通学もできるのでは)

③神湊への駐車場が月極なのに専用場所がなく、毎回、確保が難しい。→(要

望)専用駐車場の確保を。解決案：魚市場跡地は？

3、渡船航路再編について

①3隻体制から2隻体制にする方向で市側から説明を受け、島民は猛反発→
(要望)2隻+県内離島航路自治体の予備船の係留港の誘致を含め、3隻体制を維持してほしい。

4、漁業振興として

①燃油高騰対策補助金や港湾整備の取組があり、感謝している。

②(要望)藻場の再生をウニの食害対策を含めて進めてほしい。

③(要望)大島港や神湊港の波止場や防舷材の改善を。

5、コミュニティ・センターの移転について

①現状では、立地条件の悪さと老朽化が進んでいるため、島民の憩いの場所になっていない。→(要望)島民の集まりやすいターミナル近くに多目的施設として設置してほしい。

6、景観保全のために

①台風の後など、釣川の葦がべったり漂着している。→(要望)世界遺産のある島の景観を保全するために相応しい、予算設定をしてほしい。

今後、他の議員についても「大島、地島の課題について」理解される良い機会だと思われた。